

資料2 学習心得

- 「学習の心得」を教師側からでなく生徒側にたつて、自ら取り組もうとする姿勢のあるものとする。
- ア. 各学級で話し合いの意識化を図り、生徒評議会でまとめて生徒におろす。
 - イ. 「学習の心得」を特別教室及び各教室に学年カラーの台紙で掲示する。
 - ウ. 「学習の心得点検」を各学期1回行って自己評価させ、意識化を図るとともにその変容を知る手がかりとする。

1. チャイムがなったら席につこう。
2. 学習の準備をしっかりとしよう。
3. 先生の話や友達の発表をよくきこう。

- ・自己診断カードを作成し、自己評価・相互評価させ、内面化を図るとともに、指導の手がかりとした。
- ・「生活心得」をもとに生徒の日常生活における実態調査を行い、現状を的確に把握した。
- ・月の生活目標と関連させた週目標を設定し、生活委員会の活動として実践した。
- ・生徒週番を生活委員会に位置付け、週目標の指導・評価の場を設定した。
- ・基本的な生活習慣の重点項目を設定し、点検表により指導・援助を行い、徹底を図った。
- ・自己診断カードを作成し、自己評価・相互評価させ、内面化を図るとともに、指導の手がかりとした。

- あいさつ運動を推進した。
- ・生徒会評議会を中心に運動を進めた。(資料3参照)
- 生徒理解と教育相談の充実を図った。
- ・各学期一回定期教育相談を、各担任及び生徒の希望する教師で全校生徒対象に行った。
- ・教育相談の事例研究会を、初級・中級・上級の三つに分けて行い研修に努めた。
- ・「特愛生徒」の共通理解を図り全職員で手だてを考え指導・援助してきた。
- 生徒指導全体計画の見直しを図った。
- ③ 特別活動研究部
- ア. 研究のねらい
- 望ましい集団活動をとおして心

- 生活心得の見直しを図った。
- ・「生活心得」について、アンケート調査を行った。
- ・校長、教頭、生徒指導主事、生徒会顧問、学年代表、生徒会執行部、各学級委員長から構成する「生活心得見直し委員会」を設置し、来年度からの「生活心得」を作成した。さらに、保護者会や地区懇談会などで話し合い、家庭・地域との連携を図った。

資料4 全校集会の月別重点指導計画

年度	学期	月	指導内容	
平成 元 年 度	2	10	・体育館への入退場方法 ・校歌斉唱(ピアノ伴奏)	
		11	・集会実施後の反省の仕方(反省用紙の記入) ・体育委員会係分担	
		12	・生徒発表(1年間の反省) ・生徒発表を聞く態度	
	3	1	・生徒発表(1年間の抱負) ・校歌斉唱(伴奏を変える)	
		2	・全校集会時の礼儀作法(礼、返事、拍手) ・今月の歌	
		3	・生徒発表(今年度の思い出、反省) ・男女別、学年別などによる歌の練習	
	平 成 二 年 度	1	4	・合唱部発表(校歌、今月の歌)
			5	・体育館への入退場の方法確認(学級委員長、副委員長)
			6	・委員会活動(各委員会の活動状況の報告)
2		7	・学年ごとの歌の練習(校歌、今月の歌)	
		8	・全校集会運営方法の確認(生徒会執行部)	
		9	・生徒発表(夏休みの思い出、レクリエーションなど)	
3		10	・生徒発表(行事に関連した発表、音楽)	
		11	・体育館への入退場の方法確認(生徒会執行部、体育委員会)	
		12	・生徒発表(発表態度……話し方、声量、聞く態度、1年間の反省)	
度	3	1	・全校集会時の礼儀作法(礼、返事、拍手) ・生徒発表(1年間の抱負)	
		2	・全校集会運営方法の確認(生徒会執行部、学級委員長、副委員長)	
		3	・生徒発表(今年度の思い出、反省) ・今月の歌 ・全校集会の自主的運営とその方法および内容	

資料3 <あいさつ運動の推進について>
生徒評議会

1. ねらい
全校生徒が元気にあいさつをかわし、一日の生活にけじめを持って取り組めるようにする。
2. 方法
 - (1) あいさつ運動を行う意義などを、各学級で十分に話し合う。
 - (2) 一箕中独自のあいさつ運動を実行するために、標語などもつくってみる。
(各学級で考えたものを生徒会、評議会で集計して、ポスター化し、廊下などに貼る。)

あ—— 明るく
げ—— 元気に
ま—— 毎日
す—— すがすがしく

あいさつ運動

- (3) 各クラスの学級委員及び生徒会執行部が、当番制で毎朝校門の前に整列して積極的にあいさつをする。
(週交代)

各学年の1、2組の学級委員と生徒会執行部

→

各学年の3、4組の学級委員と生徒会執行部

→

各学年の5、6組の学級委員と生徒会執行部